
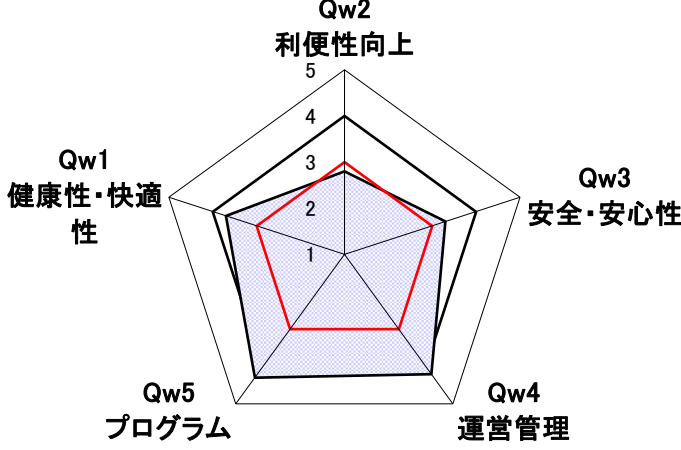
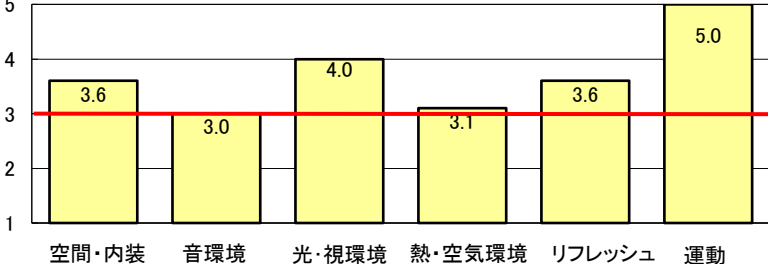
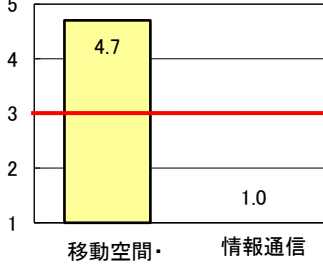
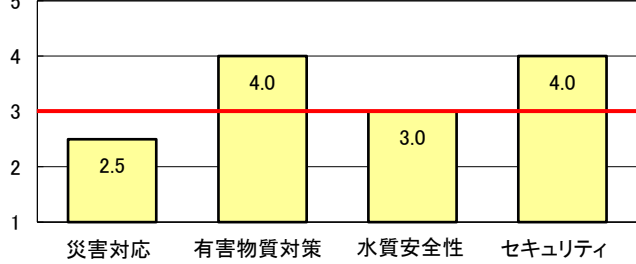
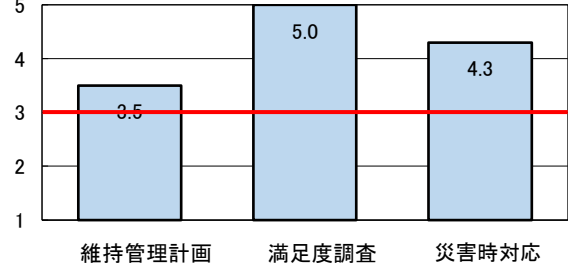
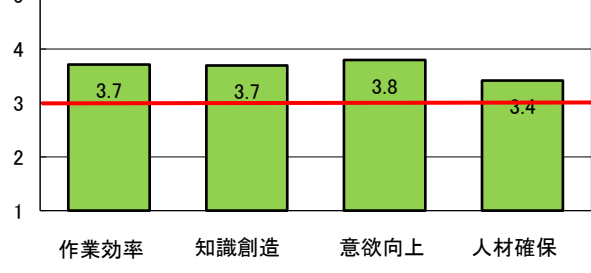
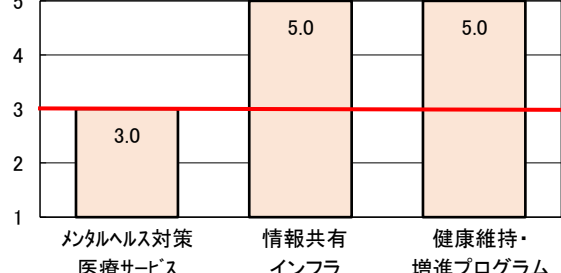


CASBEE®-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-WO_2021(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 評価パターン	
建物名称	(仮称)サプラ本社社屋新築工事	階数	地上3F	評価対象 パターン3
建設地	富山県富山市黒崎字寺田割346-1、	構造	S造	
用途地域	市街化区域	平均居住人員	112 人	1-3 外観 
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2025年9月19日	
敷地面積	1,809 m ²	作成者	アースサステナブル合同会社	
建築面積	1,068 m ²	確認日	2025年9月19日	
延床面積	2,513 m ²	確認者	アースサステナブル合同会社	

2-1 総合評価	2-2 大項目の評価(レーダーチャート)
<div><div>Rank: A 67.0 /100</div><div></div><div>S ランク;★★★★★ > 75 A ランク;★★★★☆ ≥ 65 B+ランク;★★★★ ≥ 50 B-ランク;★★★ ≥ 40 C ランク;★★ < 40</div></div>	

2-3 中項目の評価(バーチャート)			
基本性能			
Qw1 健康性・快適性 Score= 3.7		Qw2 利便性向上 Score= 2.8	
			
Qw3 安全・安心性 Score= 3.3		Qw4 運営管理 Score 4.2	
			
プログラム Qw5 プログラム Score = 4.3		参考: 知的生産性の視点に基づいた評価 	
			

3 設計上の配慮事項		
総合		
①ウエルビーイングを体感できるオフィス ②BCPへの対応 ③EMSを駆使したオフィス空間の最適運用 上記を配慮した、知的生産性の高い施設を計画した。		
Qw1 健康性・快適性 個々のデスクに加え、ラウンジや打ち合わせスペース等自由な場所で業務が可能となる環境となっている。 また、日照が少ないという地域性を考慮し執務室北側前面にカーテンウォールを設置している。	Qw2 利便性向上 建物全体を建築基準移動等円滑化基準チェックリストの過半を満たした設計を計画している。 共用部分では会話を誘発させるためのスペースを設置し（打ち合わせスペース）	Qw3 安全・安心性 建物のセキュリティ機能の強化を図り、室内に使用する建材はF☆☆☆☆を採用し安全・安心性に配慮している。
Qw4 運営管理 ワーカーへの満足度調査を定期的 to 実施し、またそれについてのチェックバックの対応も行っている。 その他、消防訓練の実施を全員で実施するなど積極的な運営管理を計画している。	Qw5 プログラム 来館者へのウイルス等への配慮、セキュリティ関係の配慮がなされている。 またワーカーへの健康面への配慮も強化されている。	その他 -

CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版

(仮称)サプラ本社社屋新築工事

バージョン CASBEE-WO_2021(v1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート				
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点	
総合評価			3.6	
Qw1 健康性・快適性			3.7	
1 空間・内装			3.6	
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	執務室の形状がロの字となっている。	4.0	
	1.1.2 荷重のゆとり		3.0	
	1.1.3 設備機器の区画別運用の変容性		1.0	
1.2 知的生産性を高めるワークプレイス		個々のデスクを設置しながら他のコーナーでも自由に作業可能。	5.0	
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画	各階インテリアパースの作成し、執務室内の照明はシーンに応じて調	5.0	
	1.3.2 共用部の内装計画	打ち合わせスペースを設け、専用部との間仕切りはグリーンにより計	4.0	
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性		3.0	
	1.4.2 OA機器等の充実度	リクライニング・高さ調整可能な椅子を採用している。	4.0	
1.5 広さ		一人当たり9㎡以上を確保し個々のデスク以外での作業スペースが	5.0	
1.6 外観デザイン			2.0	
2 音環境			3.0	
2.1 室内騒音レベル			3.0	
2.2 吸音			3.0	
3 光・視環境			4.0	
3.1 自然光の導入		地域性を考慮し北側一面にカーテンウォールを設置する計画としてい	4.0	
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		3.0	
	3.2.2 照明器具のグレア対策	反射板付きの照明を計画している。	5.0	
3.3 照度		執務室内の照度は600lx程度の計画としている。	4.0	
4 熱・空気環境			3.1	
4.1 空調方式及び個別制御性		執務室をゾーン空調可能とし設計している。	5.0	
4.2 室温制御	4.2.1 室温		3.0	
	4.2.2 外皮性能		2.0	
4.3 湿度制御			3.0	
4.4 換気性能	4.4.1 換気量		3.0	
	4.4.2 自然換気性能		3.0	
5 リフレッシュ			3.6	
5.1 オフィスからの眺望		執務室の天井高さは2.9m以上確保し、北側の窓からは花壇が確認	5.0	
5.2 室内の植栽・自然とのつながり		執務室空間全体にグリーンを計画しどの位置からでも確認ができる。	5.0	
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			3.0	
5.4 トイレの充足性・機能性			3.0	
5.5 給排水設備の設置自由度		キッチンの設置可	4.0	
5.6 リフレッシュスペース			2.0	
5.7 食事のための空間		休憩スペース内にキッチンを設ける計画としている。	5.0	
5.8 分煙対応、禁煙対応			2.0	
6 運動			5.0	
6.1 運動促進・支援機能		全ワーカー分の着替え用ロッカーを設置する計画としている。	5.0	
6.2 階段の位置・アクセス表示		階段周りに階段仕様促進のためのパネルを設置計画している。	5.0	
Qw2 利便性向上			2.8	
1 移動空間・コミュニケーション			4.7	
1.1 動線における出会いの場の創出		執務室横にミーティングコーナー・ラウンジを計画している。	5.0	
1.2 EV利用の快適性		行先キャンセル機能付EVで、耐震基準を満たしたものを採用してい	5.0	
1.3 バリアフリー法への対応		建築基準移動等円滑化基準チェックリストの過半を満たしている。	4.0	
1.4 打ち合わせスペース		十分な数の打ち合わせ空間があり、会議内容に応じ選択可能となっ	5.0	
2 情報通信			1.0	
2.1 高度情報通信インフラ			1.0	

Qw3 安全・安心性			3.3
1 災害対応			2.5
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	保有水平耐力より25%増として計画している。	4.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能		3.0
	1.1.3 設備の信頼性		2.0
1.2 災害時エネルギー供給			1.0
2 有害物質対策			4.0
2.1 化学汚染物質			3.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を4種類以上採用している。	5.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応		-
	2.3.3 土壤汚染等対応		-
3 水質安全性			3.0
3.1 水質安全性			3.0
4 セキュリティ			4.0
4.1 セキュリティ設備		防犯カメラの設置、24時間セキュリティサービスへの加入等を計画している。	4.0
Qw4 運営管理			4.2
1 維持管理計画			3.5
1.1 維持管理に配慮した設計			3.0
1.2 維持管理用機能の確保		清掃用資材スペースの確保、清掃用流し等の設置を計画している。	4.0
1.3 維持保全計画		予防保全・事後保全の計画をしている。	4.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書		-
	1.4.2 維持管理レベル		-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性			3.0
2 満足度調査			5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		ワーカーへの満足度調査の実施し、それについてのチェックバックも行っている。	5.0
3 災害時対応			4.3
3.1 BCPの有無			3.0
3.2 消防訓練の実施		自社で消防訓練を行い毛区画書の作成も行っている。	5.0
3.3 AEDの設置		事務所内どの位置にいても200m以内に到達できる配置計画としている。	5.0
Qw5 プログラム			4.3
1 メンタルヘルス対策、医療サービス			3.0
2 情報共有インフラ		来館者に対しての取り組みの周知や社内セキュリティサービスを強化している。	5.0
3 健康維持・増進プログラム		来館者、社内でのウイルス感染対策の実施をおこなっている。	5.0